松澤 宥

私の死―色による美術、言語による美術

©The Estate of Yutaka Matsuzawa, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

2025 年 10 月 4 日(土) - 11 月 29 日(土)

Yumiko Chiba Associates
東京都港区六本木 6-4-1 六本木ヒルズ　ハリウッドビューティープラザ　3F
営業時間: 12:00-19:00　定休日: 日、月、祝日
協力：The Estate of Yutaka Matsuzawa、一般財団法人 松澤宥プサイの部屋、富井玲子

この度、Yumiko Chiba Associates では、松澤宥による個展を開催します。

松澤宥（1922-2006）は、長野県諏訪郡下諏訪町に生まれ、同地を拠点に国内外に芸術を発信しつづけた、観念美術の先駆者です。

松澤は、少年から青年期までの多感な時代を、満州事変から太平洋戦争、そして敗戦をむかえる日本の激動期に過ごしました。彼の芸術に通底する物質への検討や、文明に対する批判は、この青年期までの原体験を背景にしていると言えるでしょう。

彼は生涯、眼に見えないものを世界のあらゆる人に伝達することを目指して、表現活動を行ないます。その表現は、詩に始まり、絵画や立体としての「色による美術」へと変化し、1964 年以降は「言語による美術」、つまり物質として実体を持たない美術表現へと移行していきました。

1950 年代、松澤が「美術文化協会展」や「読売アンデパンダン」展に出品した作品は、自らの思索を「色」によって表現したものでした。松澤は絵具材料の実験を繰り返し、クレヨンや蝋、煤（すす）、泥、塗料など、多様な材料を試しています。多様なマチエールの重層、両界曼荼羅から着想をえたマンダラ形式や、記号の利用などを特徴とする独創的な絵画制作を展開しました。

1964 年 6 月 1 日、「オブジェを消せ」という啓示を受けた彼は、現代文明に対する全否定の方法論、アンチテーゼとして、オブジェを棄て言葉だけで美術作品を制作することを決意します。

以降、1960 年代の松澤は「観念」を展示する実験的な試みを重ねていきます。『美術ジャーナル』51 号（1964 年 10 月号）の広告欄に発表された《荒野におけるアンデパンダン'64 展》は、伝達と表現、そして観念をめぐる松澤の最たるアートワークと言えます。また、展示空間自体を観想空間とすることを試みた内科画廊での個展における《ああニルああ荒野におけるプサイの秘具体入水式》など、個展やグループ展で次々とユニークで革新的な作品を発表していきました。この時期の「言語による美術」では、鑑賞者を観想の世界へと誘うかのように、松澤宥の美術論が詩的に展開されています。

1970 年の「第 10 回 日本国際美術展（「人間と物質」展、東京ビエンナーレ）」で発表した《私の死（時間の中にのみ存在する絵画）》は、展示室の「空間」そのものを利用して、鑑賞者が通らざるをえない通路に文章を掲げることで、人びとに観想を促し、その心の中に呼び起こされるイメージを「絵画」とするもので、この時期の松澤の観念美術を代表する作品です。

本展では、1950 年代の美しい色彩とマチエールをもった「色による美術」、1964 年に「オブジェを消せ」という啓示を受ける前後に制作された初期の「言語による美術」、そして、松澤宥の観念美術作品の代表作である 1970 年の《私の死》をご紹介します。松澤宥による観念美術のエッセンスをお楽しみください。

*本展においては、美術史家の富井玲子さんに多大なるご協力をいただきました。

松澤宥の言葉

私の美術の作品、観念美術の作品というものは、心の中で作るもの、従って視覚ではなく、「肉体で見る視覚」ではなくて、「心で見る絵画」と言いましょうか。

——松澤宥「私の作品―言葉による絵の作品」（『人生読本』（NHK ラジオ第一放送）第 1 回　1980 年 7 月 7 日放送）より

決意しました。私はこれだと。現代文明に対する全否定の方法論、アンチテーゼはこれだと。1964 年 6 月 4 日でした。私は私の美術作品をその日以後文章だけにしました。

——松澤宥「私の作品―オブジェを消せ」（『人生読本』（NHK ラジオ第一放送）第 2 回　1980 年 7 月 8 日放送）より

【トークイベント】

開催予定
*申し込み詳細等は改めてご案内いたします。

■関連情報

【個展】
「芸術のパラダイムシフト　松澤宥　量子芸術宣言―1988」
2025 年 10 月 16 日(木) – 10 月 26 日(日)
会場：d-lab gallery
主催：一般財団法人　松澤宥プサイの部屋
協力：The Estate of Yutaka Matsuzawa、Yumiko Chiba Associates

【トーク＆ダイアローグ】
「松澤と科学」
案内人：長沼宏昌（写真家）
日時：2025 年 10 月 19 日(日)　14 時 22 分 2 秒 –
会場：d-lab gallery

「松澤と哲学」
案内人：長沼宏昌（写真家）
日時：2025 年 10 月 26 日(日)　14 時 22 分 2 秒 –
会場：d-lab gallery

【グループ展】
「NAM コレクション 2025 第 II 期」
2025 年 8 月 2 日(土) – 10 月 7 日(火)
会場：長野県立美術館

■アーティストプロフィール

松澤宥

1922 年　長野県生まれ
1946 年　早稲田大学理工学部建築学科卒業
2006 年　歿

[主な個展]
1955「氷川丸船上個展」氷川丸ロビー／アリューシャン沖
1956「Yutaka Matsuzawa One Man Show」ウィスコンシン州立大学／アメリカ
1963「ψ による松澤宥個展」青木画廊／東京
1964「ああニルああ荒野におけるプサイの秘具体入水式　原型展」会場：外部空間状況探知センター／長野、反会場：内科画廊／東京
1965「ああニルああ荒野におけるプサイの秘具体入水式　松澤宥の＜反文明＞」内科画廊／東京
1966「松澤宥万物消滅式 1966」MAC・J／東京
1967「9 の無のカンヴァスと 9 のプサイの椅子と 9 の超未来的方法による松澤宥個展 V.1010」アヅマギャラリー／京都
1969「松澤宥プサイの函」青木画廊／東京
1971「Bulletin42」松澤宥号刊行記念展　アート＆プロジェクト／アムステルダム
1974「辞世室」インパクト画廊／ローザンヌ
1975「松澤宥展」アキュミュラトリー2 画廊 ポスナン／ポーランド
1977「松澤宥展」CAyC／ブエノスアイレス、ブラジル
1979「旧作の引用による新作個展」銀座絵画館／東京
1980「芸術のための世界の土台石」ミッテルブルグ／オランダ
1982「Nine Mandalas」メディア画廊／スイス
「プサイの部屋からの 27 個の函」岡崎球子画廊／東京
1983「ψ の函とそのオリジン展」岡崎球子画廊／東京
1984「壊色論 II 」岡崎球子画廊／東京
1986「ψ の部屋から―九から球へのお便り」岡崎球子画廊／東京
1988「量子芸術宣言一」岡崎球子画廊／東京
1990「（量子芸術へ向けて）方便九」岡崎球子画廊／東京
「ツインルーム」ブリギッテ・マーチ画廊／シュトゥットガルト
「EXPEDIMENT 9」ブリギッテ・マーチ画廊／シュトゥットガルト
1992「量子芸術論」岡崎球子画廊／東京
1994「松澤宥　ミメントゥ・モーライ　死を念え」山口県立美術館／山口
1995「第一回一作展（量子芸術宣言）」カスヤの森現代美術館／横須賀（同館で以降、2002,2006,2013,2020,2023 年に個展開催）
「松澤宥〈第 15 回オマージュ瀧口修造〉」佐谷画廊／東京
1996「量子芸術宣言　四」岡崎球子画廊／東京
1997「スピリチュアリズムへ・松澤宥 1954－1997」斉藤記念川口現代美術館／埼玉
1998「量子芸術宣言五　五色の糸」岡崎球子画廊／東京
「松澤宥展　E.T.H よ地球外生命体仮説よ–あなたは量子芸術に出遭ったことがありますか–」駒ヶ根高原美術館／長野
2004 松澤宥作品&松澤宥キュレーション作品展「消滅と未来と」広島市現代美術館／広島
2019「オブジェを消せ 松澤宥」展　マツモトアートセンター／松本・長野（同廊で以降、毎年個展開催）
「詩としての美術　松澤宥　言葉の軌跡展」d-lab gallery／入間・埼玉
「Yutaka Matsuzawa」Midway Contemporary Art／ミネアポリス・アメリカ
「松澤宥展」イェール・ユニオン、オレゴン州ポートランド、ノナカ＝ヒルズ、ロサンゼルス；ミッドウェイ・コンテンポラリー・アート、（巡回し、2020 年「松澤宥：量子芸術にむけて」ハワイ大学ジョン・ヤング美術館）
2021「松澤宥展」gallery G／ 広島
2022「生誕 100 年 松澤宥」長野県立美術館／長野
「松澤宥 生誕 100 年祭」諏訪湖博物館・赤彦記念館、下諏訪町内／長野
2023「生誕 101 年 松澤宥展」ギャラリー・アートアンリミテッド／東京
2024「松澤宥展」なるせ美術座／町田・東京
2025「松澤宥生誕 103 年祭」旧矢崎商店／下諏訪町・長野
「『プサイの部屋　松澤宥アトリエ』出版記念　松澤宥展」ギャラリー・アートアンリミテッド／東京

[主なグループ展]
1951「アヴァンギャルド・アート・ディスプレイ」南日会館／諏訪・長野
1952「第 4 回読売アンデパンダン展」東京都美術館／東京
「第 12 回美術文化協会展」東京都美術館／東京
「第 2 回草間彌生新作個展」松本市第一公民館／松本・長野
1953「第 5 回読売アンデパンダン展」東京都美術館／東京

「第 13 回美術文化協会展」東京都美術館／東京、愛知県商工館ホール／愛知
1954「第 6 回読売アンデパンダン展」東京都美術館／東京
「第 14 回美術文化協会展」東京都美術館／東京
1955「アルファ芸術陣結成展」村松画廊／東京
1958「第 10 回読売アンデパンダン展」東京都美術館／東京
1959「第 11 回読売アンデパンダン展」東京都美術館／東京
1960「第 12 回読売アンデパンダン展」東京都美術館／東京
「超現実絵画の展開」東京国立近代美術館／東京
1961「第 13 回読売アンデパンダン展」東京都美術館／東京
「現代美術の実験」東京国立近代美術館／東京
1962「第 14 回読売アンデパンダン展」東京都美術館／東京
1963「第 15 回読売アンデパンダン展」東京都美術館／東京
1964「アンデパンダン'64 展」東京都美術館／東京
「仙台アンデパンダン展」三越／仙台・宮城
「荒野におけるアンデパンダン'64 展」長野県七島八島高原ツンドラ地帯／長野
1965「全日本アンデパンダン展」横浜市民ギャラリー／神奈川
「アンデパンダン・アート・フェスティバル」市民センター・金公園／岐阜
1966「東京芸術会議展」東京都美術館／東京
「現代美術の祭典展」堺市体育館／大阪
1967「表現の不自由展」村松画廊 ／東京
1969「第 9 回現代日本美術展」東京都美術館／東京
「美術という幻想の終焉展」長野県信濃美術館／長野
「現代美術の動向展」京都国立近代美術館／京都
「野外造形 '69〔第 2 回現代の造形〕」鴨川公園／京都
1970「第 10 回日本国際美術展　東京ビエンナーレ〈人間と物質〉」東京都美術館／東京
「第 5 回ジャパン・アートフェスティバル国内展示」東京国立近代美術館／東京
「現代日本美術展」グッゲンハイム美術館／ニューヨーク
「ニルヴァーナ展」京都市美術館／京都
「アート＆プロジェクト展」アート＆プロジェクト／アムステルダム
1971「第 10 回現代日本美術展 -自然と人間-」東京都美術館／東京
「音会」泉水入瞑想台／下諏訪・長野
「ユートピア＆ヴィジョン展」ストックホルム近代美術館／スウェーデン
「Sonsbeek '71」オランダ
1972「Catastrophe Art From The East」サン・フェデーレ画廊／ミラノ
「Documenta5」カッセル／ドイツ
1973「京都ビエンナーレ」京都市美術館／京都
1974「Prospectiva '74」サンパウロ大学現代美術館／サンパウロ・ブラジル
「ニルヴァーナへ カタストロフィ・アート・イン・ブエノスアイレス」CAyC／ブエノスアイレス
1975「東京展」東京都美術館／東京
「Visual Poetry International」ユトレヒト・ロッテルダム／オランダ
1976「ヴェネツィア・ビエンナーレ」ヴェネツィア／イタリア
「シドニー・ビエンナーレ Recent International Forms in Art」Art Gallery of New South Wales／オーストラリア
「七人のイタリア作家と七人の日本作家　新しい認識への方法・美術の今日展」イタリア文化会館／東京
1977「サンパウロ・ビエンナーレ」サンパウロ／ブラジル
1978「第三世界と結ぶ国際展―人間と自然の復権」東京都美術館／東京
1982「滝口修造と戦後美術」富山県立近代美術館／富山
1984「パリ-東京　現代美術交流展」クリスチャン・シュノ―ABCD 画廊／パリ
「Furk'Art '84」フルカ峠／スイス
「1970 年以降の美術-その国際性と独自性」東京都美術館／東京
1985「プロセスと構築」ミュンヘン各地／ドイツ
「第一回 JAPAN 牛窓国際芸術祭」牛窓・岡山（以降、牛窓国際芸術祭に関わる）
「Reconstructions cion: Avant-garde Art in Japan 1945-1965」オクスフォード近代美術館／イギリス
1986「Japon des avant-gardes 1910-1970」ポンピドゥー・センター／フランス
1987「日本の祭」サンフランシスコ近代美術館／アメリカ
「時代精神建築」ヴォルフスブルグ市立美術館／ドイツ
1989「CONCEPT ART」Stalke Gallerie／コペンハーゲン、ブリギッテ・マーチ画廊／ シュトゥットガルト 他
1990「Art meets Science and Spirituality in a changing Economy」フォドール美術館／アムステルダム
1992「70 年代日本の前衛」ボローニャ市立近代美術館／イタリア
「ジョン・ケージ メモリアル」清里現代美術館／山梨
1993「ボローニャ展帰国記念 70 年代日本の前衛 抗争から内なる葛藤へ」世田谷美術館／東京
1995「戦後文化の軌跡 1945-95」目黒区立美術館／東京、広島市現代美術館／広島 他巡回
「インターナショナル　スカルプターズ　シンポジウム」ULUDAG 大学／プルサ、トルコ

1996「日本の美術―よみがえる 1964 年」東京都現代美術館／東京
「弁天海港佐久島 開港パーティ」一色町佐久島／愛知
1999「グローバル・コンセプチュアリズム: Points of Origin, 1950s-1980s」クイーンズ美術館／ニューヨーク
2001「センチュリー・シティ: 現代都市における芸術と文化」テートモダン／ロンドン
「SANGAI: 水上央子・松澤宥・磯辺行久」セゾン現代美術館／長野、セゾンアートプログラムギャラリー／東京
2002「傾く小屋 美術家たちの証言 since9.11」東京都現代美術館／東京
「未完の世紀: 20 世紀美術がのこすもの」東京国立近代美術館／東京
2003「宥密法 -YUMITSUHO-」豊田市美術館／愛知
2004「インベッド　生命の美術」豊田市美術館／愛知
「松澤宥と九つの柱〈九相の未来 パーリー・ニルヴァーナに向かって〉」広島市現代美術館／広島
2006「迷宮＋美術館　コレクター砂盃富男が見た 20 世紀美術」群馬県立近代美術館／群馬、渋谷区松濤美術館／東京
2007「宇宙御絵図」豊田市美術館／愛知
2008「PERFORMING THE CITY – Kunst Aktionismus im Stadt Raum 60er und 70er jahre –」 Städtische Kunsthalle München／ミュンヘン、ドイツ
2009「Hommage à Yutaka Matsuzawa – Installation / Joseph Kosuth – Installation」Brigitte March International Contemporary Art／シュトゥットガルト、ドイツ
2014「ヨコハマトリエンナーレ 2014　華氏 451 の芸術: 世界の中心には忘却の海がある」横浜美術館、新港ピア／神奈川
2016「コンテンポラリーの出現・日本の前衛美術 1950-1970」パソ・インペリアル美術館／リオ・デ・ジャネイロ
「閉鎖展を回顧する」フライ・アート・クンストハレ、フリブール／スイス
「在る表現―その文脈と諏訪」茅野市美術館／長野
2017「ニルヴァーナからカタストロフィーへ　松澤宥と虚空間のコミューン」オオタファインアーツ／東京
2018「1968 年 激動の時代の芸術」千葉市美術館／千葉 他巡回
2019「荒野のラジカリズム: グローバル 60 年代の日本の現代美術家たち」ジャパンソサエティ／ニューヨーク
2024「私たちのエコロジー: 地球という惑星を生きるために」森美術館／東京
2025「信州から考える 絵画表現の 50 年」長野県立美術館／長野

[パブリックコレクション]
広島市現代美術館、M+、ニューヨーク近代美術館、長野県立美術館、富山県立美術館、豊田市美術館 他

【本展に関するお問合せ】ぜひ貴社にて御紹介くださいますようお願い申し上げます。画像データの御依頼等は下記までご連絡下さい。
ユミコチバアソシエイツ　〒106-0032 東京都港区六本木 6-4-1　六本木ヒルズ ハリウッドビューティープラザ 3F
[Tel] 03-6276-6731　[e-mail] info@ycassociates.co.jp　[website] www.ycassociates.co.jp　[営業時間] 12:00-19:00　[定休日] 日・月・祝日